あさちに虫の聲しげし

こころの花

つねを

八重にひとへに　さくら花
笑ふすがたや　春の夢
錦衣かざりて　山の端に
にほふ紅葉も　あきの彩
たけく優しく　うるはしき
大和ごころに　咲くはなは
あらしや霜の　折り〳〵に
あかき精神の　鍛錬はれて
君に捧ぐる　眞ごころの
まことの色香　あふれては
軈ては遠く　世界の
果てなき園に　かをるなり

説林

本邦古代保育法の一斑

下村三四吉

その第二は美稱であります。即ち美しいとか勇ましいとか立派なよい名をつけるのです。例へば木花開耶比賣とか倭建命とか申す類はこれであつて、歴史上には澤山例が見えて居ります。

次に第三のは、地名によれる名であります。その例を申しませう。垂仁天皇の時に見えてゐる狹穗彦と狹穗媛とは御兄弟でありますが、その狹穗